

# JAMの主張

次のターゲットは来夏の参院選

## SNS活用で弱点を克服

“カードも LINE”も取り組もう

【機関紙 JAM・2024 年 10 月 25 日発行 第 309 号】

自民、立憲民主は 2,000 万超、国民民主 1,300 万超、共産約 540 万、公明約 270 万など。10 月の衆議院総選挙での各政党 YouTube 公式チャンネル動画の再生回数が、主要 9 党合わせて 1 億回超。

1 日の平均再生回数も、2022 年参院選の約 3 倍（NHK より）。

総選挙を経たいま、JAM の政策実現活動の次なるターゲットは、来夏の参議院選挙だ。郡山りょうを国会に送り込む取り組みが、全国の組織を挙げて進められている。

われわれの唯一の弱点は、郡山りょうが一人しかいないこと。郡山りょう本人が、全組合員にお会いすることができれば、とてつもない効果を発揮できる。残念ながらそれは不可能だ。

そこで、単組の役員・リーダーが郡山りょうになり代わり、組合員に接していく。ここまではこれまで通り。組織選挙の常道だ。

これに加えて今回の取り組みでは、組織の取り組みをバックアップする SNS 活用を推し進めている。

従来の応援カード展開を進め、公式 LINE 登録をすべての組合員に求めていく。どちらかの選択ではなく、“カードも LINE も”取り組むことが重要だ。

カードに協力していただき、さらに、公式 LINE への登録お願いの声掛けをする。登録いただいた折には、郡山りょうから直接情報を提供していく。この取り組みが、地方 JAM の方針に基づき、単組ごとに順次進められている。

すでに公開されている郡山りょうの一般向け SNS の活用も大切だ。

Instagram、X（旧 Twitter）、Facebook、TicTok、YouTube のチャンネル登録は、今すぐにでも始めよう。

組合員に声をかけるチャンスを増やす、そして、組合員への情報提供を継続する。“いまの戦い”に欠かせない取り組みであり、これをやりきることによって、わが手に結果をもたらすものと確信している。

JAM 副書記長 椎木 盛夫